

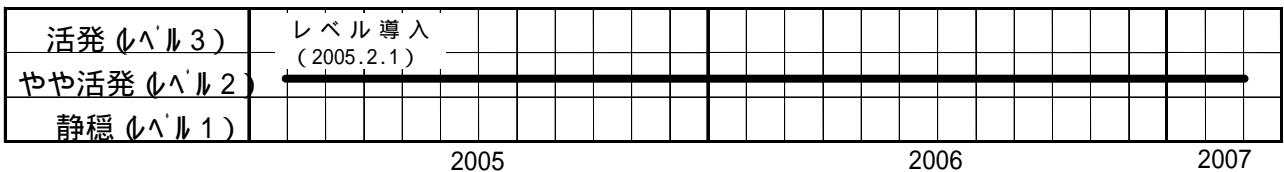
口永良部島

火山活動評価：やや活発な状況(レベル2)

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

平成 17 年 2 月 1 日の導入以降、レベル2が継続しています。

火山活動度レベルの推移



概況

・噴煙活動

監視カメラでは、新岳から高さ 10m の噴気が観測されました。

古岳からの噴気は観測されませんでした。

・地震、微動活動(図2、図3)

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 174 回(1 月: 181 回)でした。火山性微動は、2006 年 10 月からやや多い状態が続いており、月回数は 65 回(1 月: 21 回)でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

・地殻変動(図4、図5)

GPS 連続観測では、昨年 9 月以降見られていた新岳の膨張を示す傾向は、昨年 12 月以降鈍化し、今期間も同様の状態が続いています。

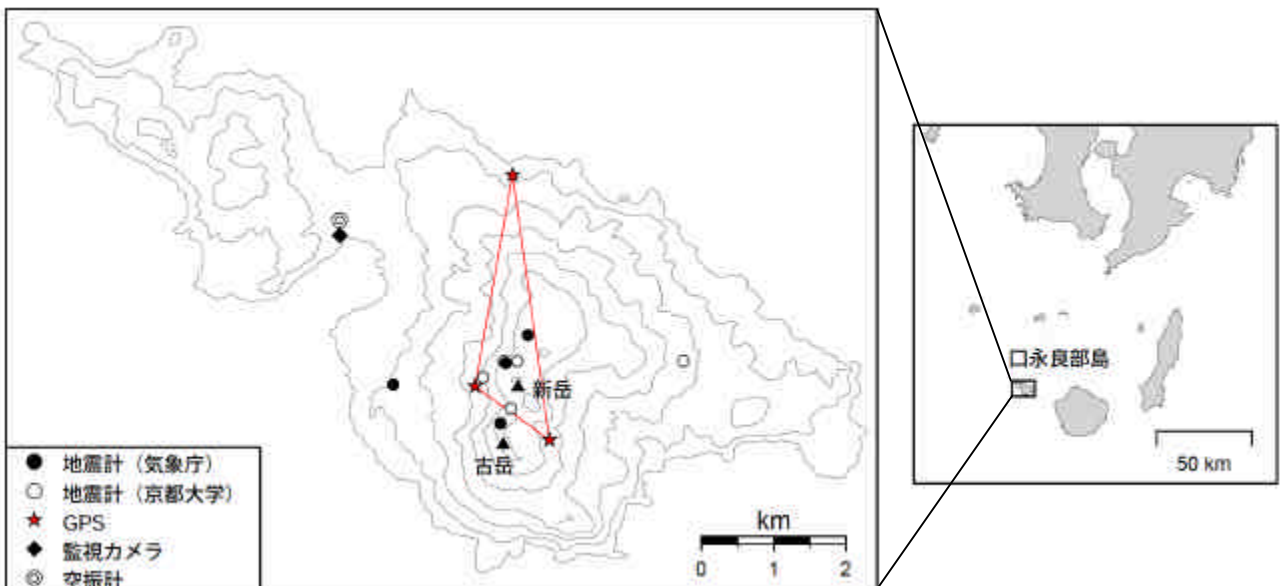
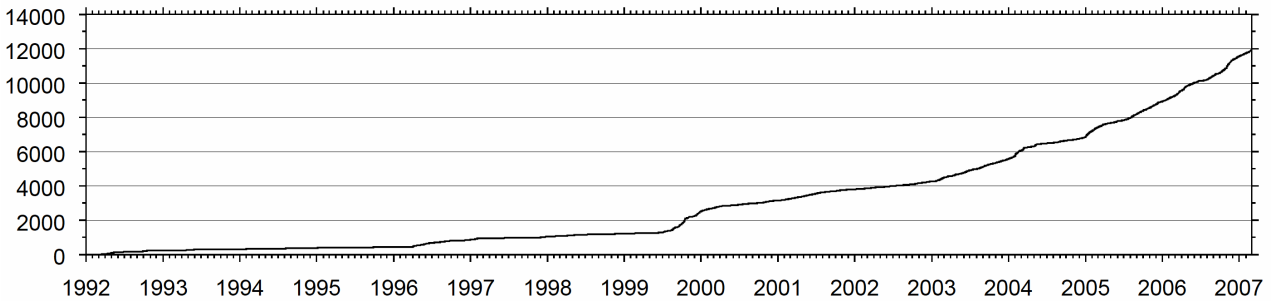


図1 口永良部島 観測点配置図

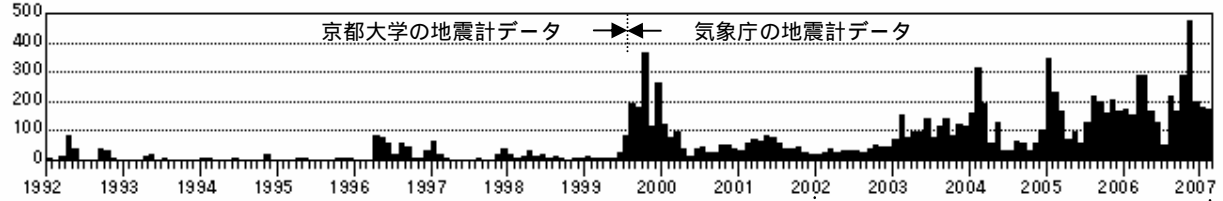
この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、京都大学のデータを利用して作成しました。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

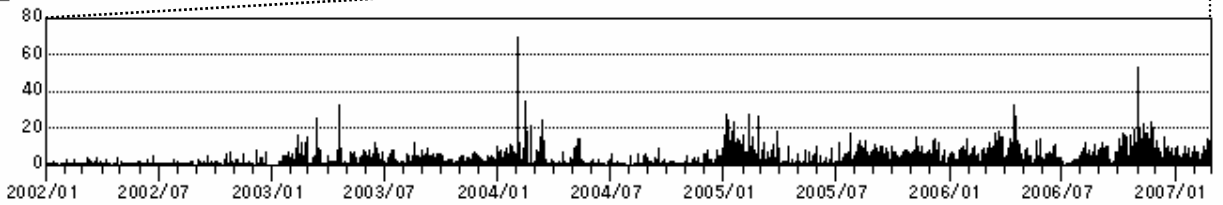
回 火山性地震日別積算回数



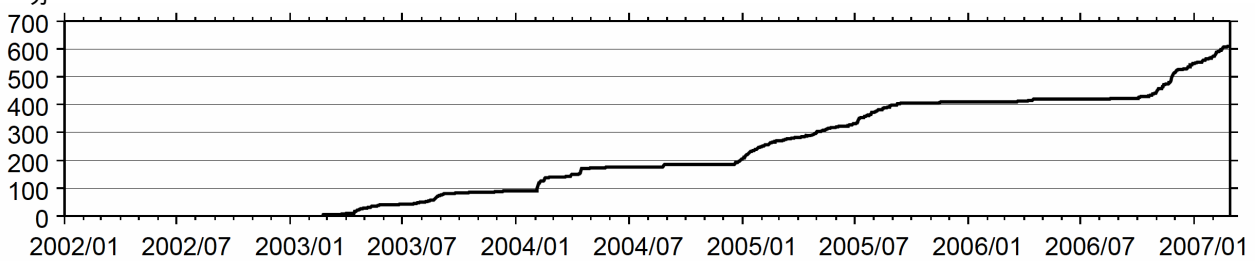
回 火山性地震の月別発生回数



回 火山性地震の日別発生回数



分 火山性微動の積算時間



分 火山性微動の日積算時間

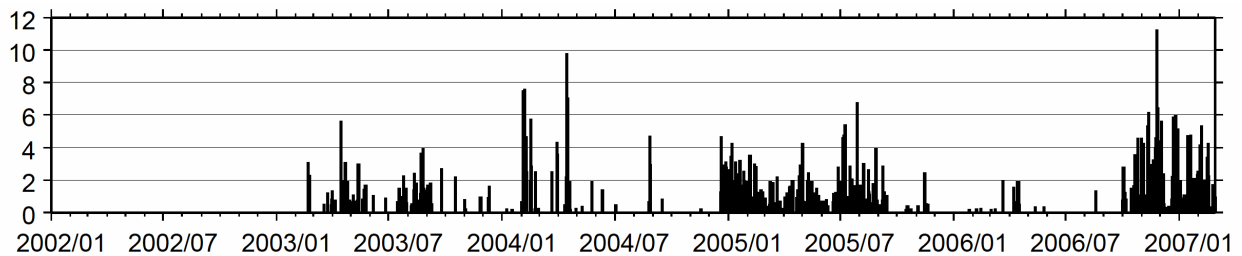
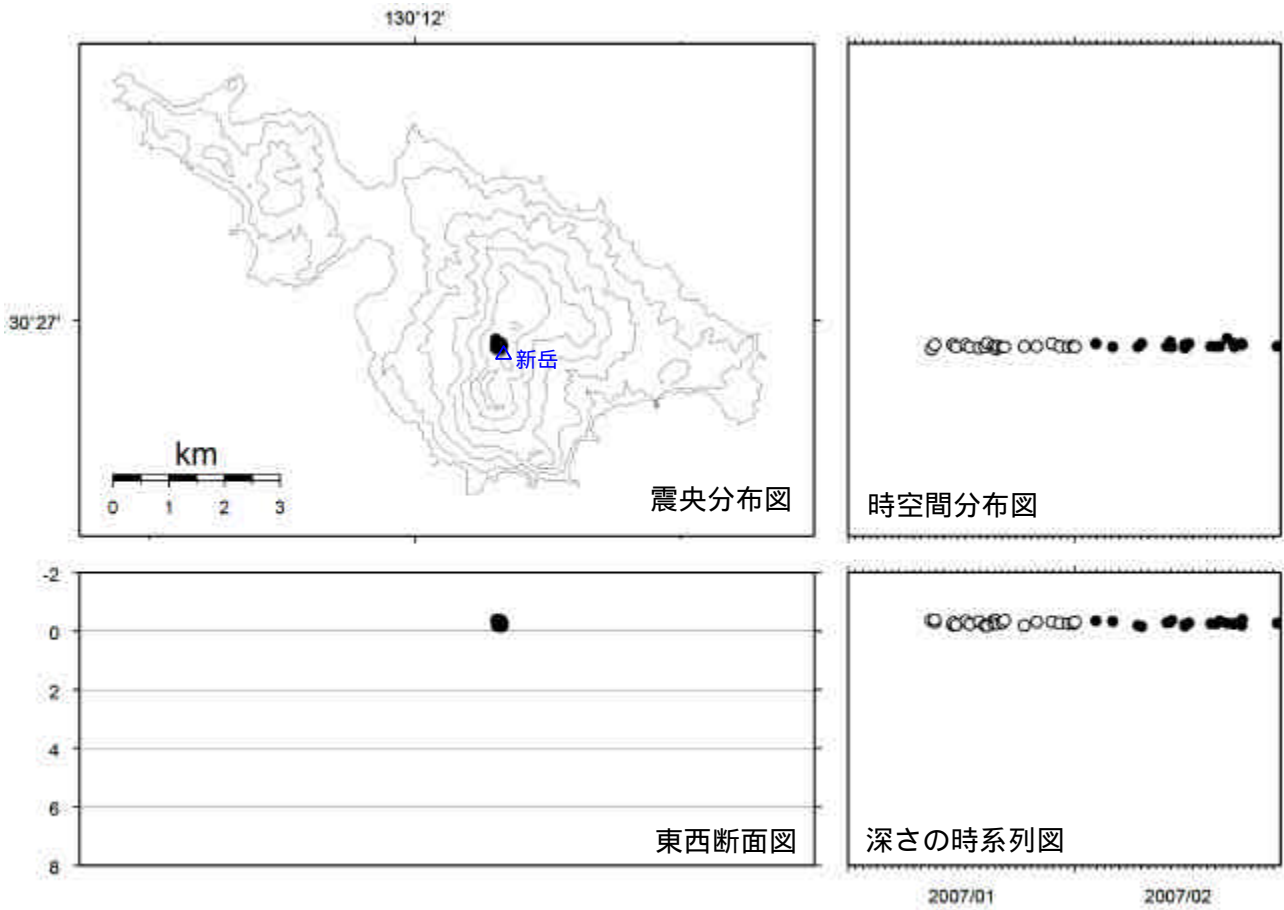


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日~2007年2月28日)

- ・2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

*1982年1月1日~1999年9月12日及び2005年12月15~28日までは京都大学のデータを使用しました。

*2002年12月22日~2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日~9月18日、2005年11月5日~12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。



: 2007年1月1日～1月31日 N=24
 : 2007年2月1日～2月28日 N=19
 速度構造：火口周辺は半無限構造
 (Vp=2.5 km/s、Vp/Vs=1.73)

図3 口永良部島 震源分布図(2007年1月1日～2007年2月28日)
 ・火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

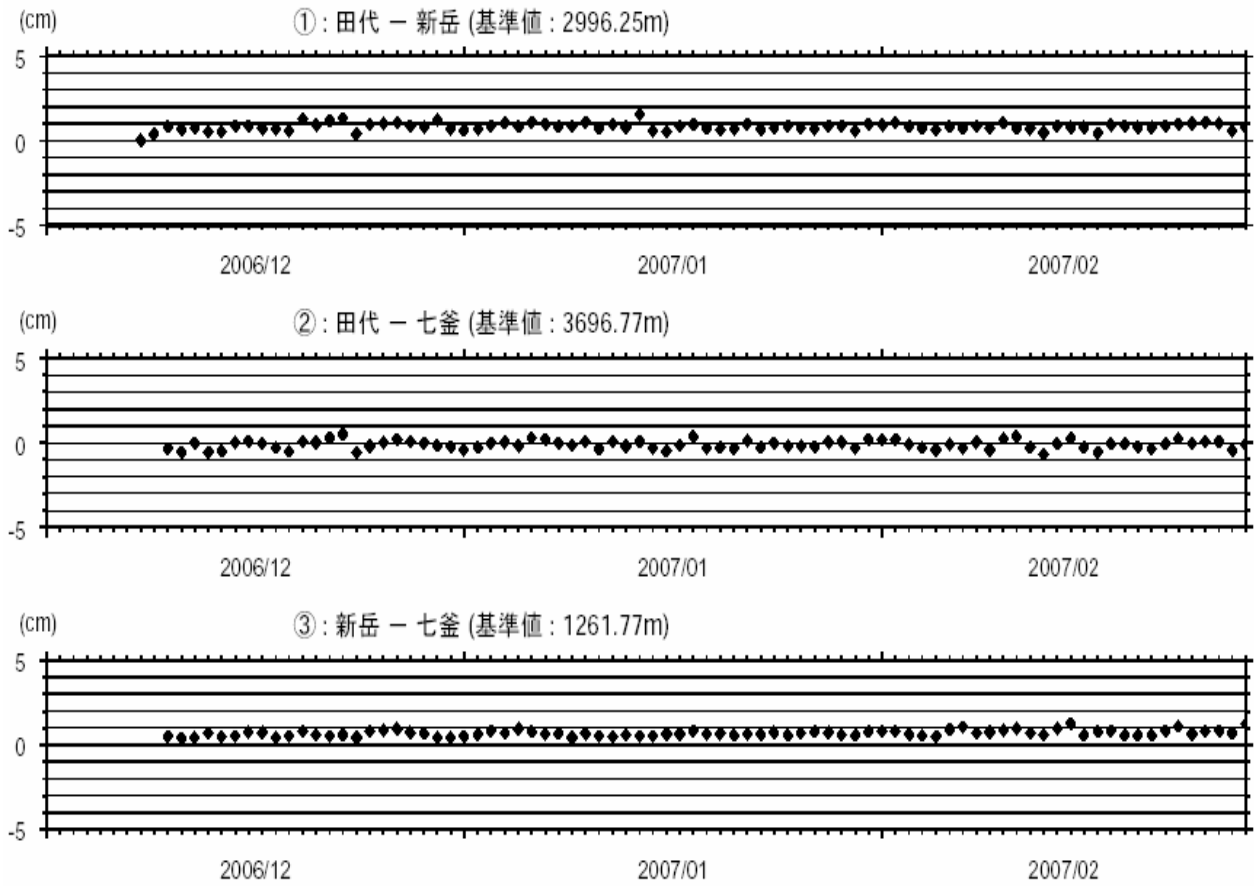


図4 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化図(2006年12月8日~2007年2月28日)
火山活動に起因するような変化はありませんでした。

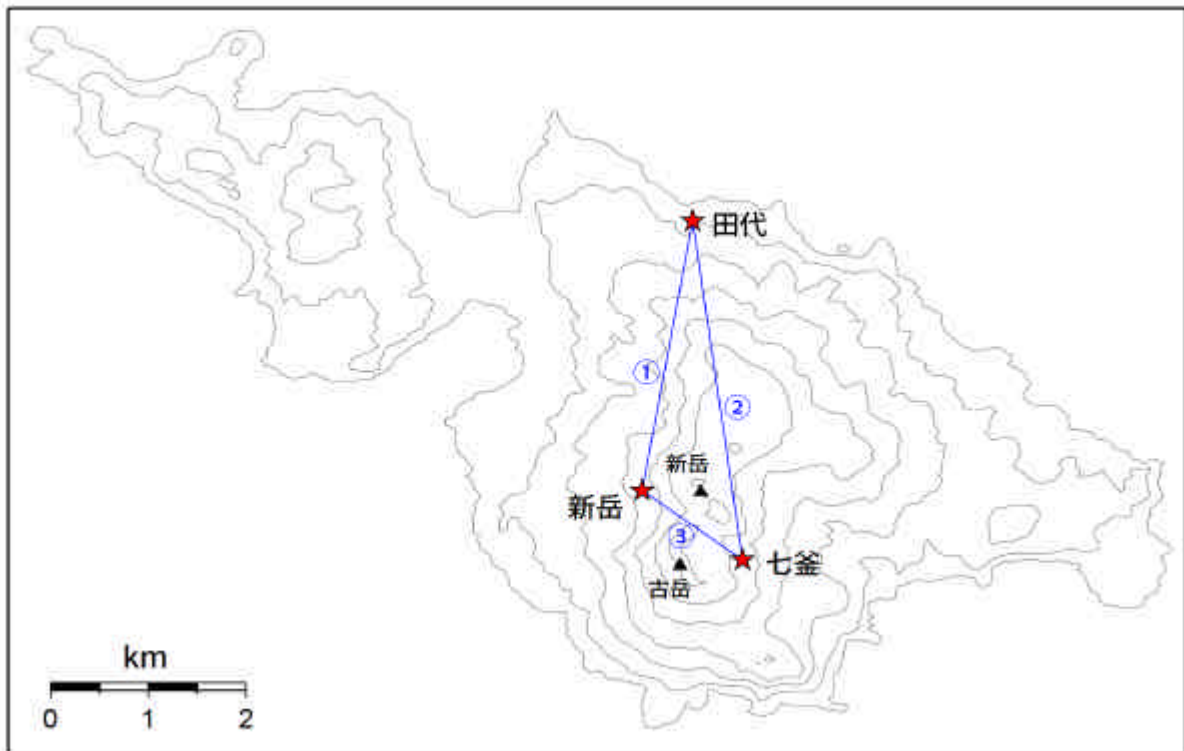


図5 口永良部島 GPS連続観測点と基線番号